

【報道関係各位】

2025年1月29日
一般財団法人 日本気象協会

2025年桜開花予想（第1回） 開花トップは福岡・高知で3月20日 九州から関東では平年並み

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国 49 地点の桜の開花予想（第1回）を、2025年1月29日（水）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

地点		開花予想日と傾向(平年比)		平年	昨年
北海道(道東)	釧路市	5/8	かなり早い	5/16	5/3
北海道(道央)	札幌市	4/23	かなり早い	5/1	4/18
青森県	青森市	4/16	早い	4/22	4/15
宮城県	仙台市	4/2	早い	4/8	4/2
秋田県	秋田市	4/13	早い	4/17	4/10
東京都	千代田区	3/22	平年並	3/24	3/29
長野県	長野市	4/6	早い	4/11	4/8
新潟県	新潟市	4/3	早い	4/8	4/6
石川県	金沢市	3/27	かなり早い	4/3	4/1
愛知県	名古屋市	3/23	平年並	3/24	3/28
大阪府	大阪市	3/25	平年並	3/27	3/30
広島県	広島市	3/24	平年並	3/25	3/25
高知県	高知市	3/20	平年並	3/22	3/23
福岡県	福岡市	3/20	平年並	3/22	3/27
鹿児島県	鹿児島市	3/25	平年並	3/26	3/29

※釧路市はエゾヤマザクラの予想

2025年1月29日発表
日本気象協会 tenki.jp



開花の傾向

2025年の桜の開花は、西日本は平年並み、東日本では平年並みか早く、北日本は平年より早いでしょう。

今年の桜の開花は、3月20日に福岡と高知からスタートする見込みです。東京では22日に、名古屋では23日に、大阪では25日に開花し、3月末までに九州から北陸にかけての広い範囲で開花するでしょう。

4月に入ると、桜前線は東北まで北上し、4月2日には仙台で、16日には青森で開花する見込みです。4月下旬には北海道へ到達し、札幌では23日に開花するでしょう。

昨年(2024年)の秋は全国的に高温傾向で、桜の花芽の休眠に影響するとみられる11月の気温は、西日本ではかなり高くなりました。一方で、12月の気温は全国的に平年並みか低くなり、西日本では1月も平年より低めに経過しています。

今後、西日本と東日本では、2月上旬は厳しい冷え込みになりますが、2月中旬から3月の気温は平年並みか高く推移する見通しです。11月は高温となったものの、その後、桜の花芽は寒さにさらされ、休眠打破[※]の遅れの影響は小さいとみられます。3月は暖かい日が多くなると予想されることから、桜のつぼみは順調に膨らんで、開花はおおむね平年並みとなるでしょう。北陸や甲信などでは平年より早いところもある見込みです。

北日本は、2月から4月にかけての気温は平年より高いと予想され、桜の開花は平年より早いでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじゃーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991~2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 29 日(水)	第 2 回 2 月 26 日(水)	第 3 回 3 月 5 日(水)	第 4 回 3 月 12 日(水)
第 5 回 3 月 19 日(水)	第 6 回 3 月 26 日(水)	第 7 回 4 月 2 日(水)	第 8 回 4 月 9 日(水)
第 9 回 4 月 16 日(水)	第 10 回 4 月 23 日(水)	第 11 回 4 月 30 日(水)	

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5~6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80% 以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月、2 月中は 49 地点、3 月以降は全国で約 80 地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約 30 地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 19 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。